



学校だより

2025年12月24日
藤沢市立御所見中学校
校長 山田 大

御所見小学校・中里小学校と交流を深めた2025年

～かながわ学びづくり推進地域研究委託事業「講演会」～

12月17日(水)に御所見小学校・中里小学校と合同で講演会が行われました。まず、13時過ぎから児童生徒を対象とした第1部講演会、15時半からは教職員、保護者、地域の方を対象とした第2部講演会の2本立てで、いずれも講師は横浜国立大学の池田敏和先生にお話しいただきました。

この講演会は御所見小学校・中里小学校と御所見中学校が県の委託を受けて取り組む研究の一環として行われたもので、「次代を豊かに生きていくために、児童・生徒につける必要のある力」をテーマに3校の児童生徒、保護者、教職員、地域の方が同じ考えのもと教育活動に取り組むためのものです。



第1部講演会では、池田先生が御所見小学校の体育館で4, 5, 6年生の前で講演する様子をオンラインで御所見中学校の生徒が中学校の教室で視聴し、中里小学校の児童は後日オンデマンドを視聴する予定です。児童生徒向けの内容は「自然から学ぶ」「疑問を持つ」「共に生きる」というテーマで、5,000年生きている木の話やクリスマスイブの時間やネアンデルタール人が滅びた理由など、児童・生徒の興味関心を高め、学びについて考える楽しいお話でした。

第2部の講演では、御所見市民センターのホールに三校の教職員、保護者、地域の方が集い、「子どもと共につくる学び」というテーマで、「自分の考えにフタをする」「先生、ぼく動物園に行きたくないよ。という子の気持ち」「心の豊かさと言貧しさ」「折り紙で正三角形をつくらう」「失敗とたたき台」「子どもの成長のしかた」「成長できる考え vs 成長できない考え」「自由と自在」「自主の中に自律の心」といった内容で、細かくかみ砕いて「次代を豊かに生きていくために、児童・生徒につける必要のある力」についてお話いただきました。 ※YouTubeで保護者の方向けに限定公開されています(機材トラブルのため後半のみ)



中でも、「知識の詰め込みが子どもの学びを奪う」「子どもの学びは階段を一段ずつ上がるように規則的ではない、立ち止まったり、戻ったりしながら、あるとき一気に伸びる」「学ぶということは、人生と同じで蛇行する川のようなものだが、遙か上空から見ればほぼまっすぐである」といった説明にとっても納得させられました。大人が子どもの学びにどのように関わるか、大いに考えさせられ反省させられる気づきがたくさんありました。

今後、児童・生徒、保護者(地域の方)、教職員に「児童・生徒の成長への願いアンケート」というアンケートを実施して御所見・中里地区の子ども達の未来に向けて「最適」な学びを地域全体で考えていきます。

今年度は、「小中学校、地域との交流・連携」を御所見中学校の重点施策として、取り組んできました。今までも合唱交流、給食交流、特別支援学級の交流など様々な交流を実施していましたが、コミュニティスクールが三校合同になったことや「学びづくり」の事業をきっかけに、更に加速させたいと考えています。今回の講演会は、子ども、保護者、地域の方、教職員が「心をつなぐ」にして御所見・中里地区の学びについて考えるスタートラインとなりました。「学ぶ」ということに終わりはありません。一生続いていくものです。この地域の全ての人々が共通の思いで学び続けるために、豊かな人生を生きるために何が必要か一緒に考えていきたいと思っております。

今年の漢字一字は「棒（ぼう）」

～努力の上の辛抱という棒を立てて、そこに花を咲かせる～

12月24日（水）の4時間目に全校集会が行われました。その中の「校長の話」では、昨年続き「今年の漢字一字」と今年新たに「2025 ヤマダ流行語大賞」を発表しました。

まず、「2025 ヤマダ流行語大賞」は始業式から言い続けている「努力の上の辛抱」です。この言葉の後には「…という棒を立てて、そこに花を咲かせる」という言葉が続きます。

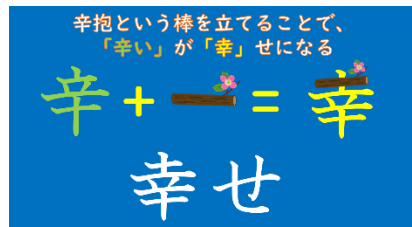
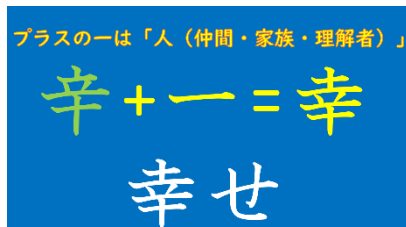
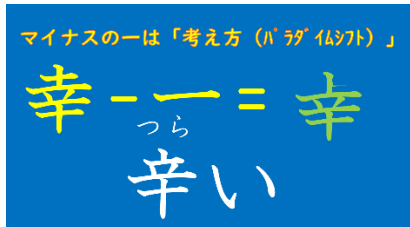
なぜ私が一年間この言葉を言い続けたかという、御所見中学校の生徒は素直で、気さくで、優しく、今までの十分素敵な人たちですが、本当に幸せになるために、よりよく生きるためには、この言葉が必要だと考えたからです。ですから、「今年の漢字一字」は当然「棒（ぼう）」になります。



2025年度 ヤマダ流行語大賞



ちなみに、昨年の「今年の漢字一字」は「幸（しあわせ）」でした。私自身が御所見中の校長になってとっても幸せだったからです。「幸」という字から、一本横棒を取ると「辛い」という字になる、このマイナスの一は「考え方（パラダイム）」のことで、本当は幸せなのに「足りないこと」「できてないこと」ばかりに目を向けるから辛くなる。反対に、「辛い」という字に、横棒一本足せば「幸せ」という字になり、たとえ辛い状況でも仲間や家族、理解してくれる人、支えてくれる人がいれば幸せになれる、という説明をしました。全くの偶然ですが、辛い辛の字は辛抱の辛の字ですね。昨年と今年が見事につながりました。



昨年の漢字と今年の漢字の意味を合わせると、辛い状況にあっても、「辛抱という棒を立てて」そこに花を咲かせることで「幸せ」になるということです。また、今年のヤマダ流行語大賞ノミネート作品には「エラー&ラン」があります。辛抱という棒を立てても、失敗して心が折れてしまっても続きません。心が折れないためには、失敗するのが当たり前、そこから学ばばいいという考えが大切です。挑戦するのも当たり前、だからトライ&エラーより「エラー&ラン」が重要なのです。

お笑い芸人のペコパの言葉も紹介しました。「まちがいは故郷（ふるさと）だ、誰にでもある！」まちがいを失敗に言い替えて、「失敗は故郷だ、誰にでもある」でもいいですね、どちらも挑戦する人に勇気を与える言葉です。

私の今年の「辛抱」は禁酒！

7月12日（土）から目標は8/29（金）の人間ドックまでの50日間でしたが、現在も継続中

35年間 ほぼ毎日酒を飲んできましたが、やればできるもんです！

さらにダイエットにも再挑戦しました

エラー&ラン 失敗&学習

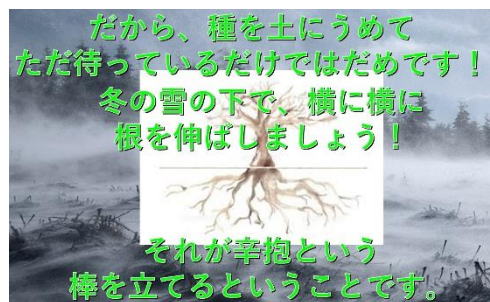
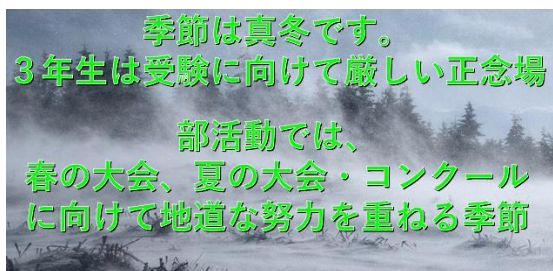
トライ&エラー 挑戦&失敗

ペコパの名言、これで挑戦を止めるな

まちがいは（失敗）は故郷（ふるさと）だ！

誰にでもある！

今、季節は冬です。辛抱は辛く長い冬のようなです。ましてや受験する3年生にとって今はまさに正念場です。冬はどんより曇った日が多く、すぐに日が暮れて暗くなります。部活動でも3年生が引退して人数が少なくなり、活気が失われているかもしれません。新人戦も終わり、春の大会、夏の大会・コンクールに向けて地道な努力を重ねる季節と言えるでしょう。歌(詩)に勇気づけられ、試練を乗り越えられることもあるということで「The Rose (ザ ローズ)」という曲を紹介しました。歌詞の中に「厳しい冬であっても、降り積もる雪のはるか下では、太陽の輝く光を待つ花の種が、静かに眠っていて春になれば、バラの花を咲かせる」という言葉があります。曲を聴いた後に「冬こそ棒(ぼう)を立てる季節です。種を土にうめて、ただ待っているだけではだめで、冬の雪の下で、横に横に根を伸ばそう、それが辛抱という棒を立てるということです。」と付け加えました。



生徒の皆さん、それでも「明けない夜はない!」辛い受験勉強、辛い部活の練習辛抱の先に花が咲きます!「生きる力を育み」「自分も人も大切に」今年一年、本当にありがとうございました。来年も頑張りましょう!

【1年生 交通安全教室 10月24日(金)】



【2年生 仕事の学び場 Jr. 11月14日(金)】



【1年生 目久尻川クリーンキャンペーン 11月28日(金)】【大人から挨拶運動 11月21日(金)】



【5組クリスマス会 12月12日(金)】【落ち葉拾いキャンペーン 12月9日(火)11(木)16(火)18(木)】

